

やちまた21

山本 正美
押尾 巖
小澤 定明
会嶋 誠治
加藤 弘

個人
質問
加藤 弘

安全・安心の充実

問 本市の地域防災計画はどのようなになっているか。

市長 この計画は、八街市において想定される災害に対して一つ「災害予防計画」、二つ「災害応急対策計画」、三つ「災害復旧・復興計画」の三つの計画を定めている。

本計画の運営 本計画の運営に際し災害発生時には、迅速な対応が求められるため、緊急連絡網の整備、職員の参集体制の確立など、初動体制の強化に努めている。

市長 避難場所は市内28カ所指定し、約2万7千人です。また、これらの施設のみをもって収容能力に不足を生じるときには、野外テ

ントなどを設置しての対応で、約4万4千人収容可能と見込んでいる。

問 国の防災マスタープランでは建物の耐震化と共に、最低3日間の非常用電源と食料・飲料水・衣料品の確保を求めているが、本市の対応はどうか。

市長 現在、防災備蓄倉庫を今年度設置を含めて9カ所設置しており、各倉庫には非常用食料、毛布などの生活必需品、応急対策用資材として移動用発電機8台、防水シート、土嚢袋などを備えている。

今後も避難場所に順次、生活必需品、応急対策用資材の整備を行っていく。

保育園整備

問 働きたい女性のためにも保育園の入所申し込みを受け付ける考えはどうか。

市長 預けられたら働きたい女性に対しては、子ども入所後に働くことを条件とした確約書を提出していただくことにより、保育園の入所申し込みの受付を行っている。

問 「待機児童」解消策として「保育ママ」制度の導入はどうか。

市長 本市では私立保育園の導入や一時保育事業の拡充等により、待機児童の解消を図っていききたい。

義務教育の推進

問 保護者、市民の期待に応える質の高い義務教育をどのように推進していくのか。

教育長 本市では幼小中高連携教育の実践の柱として、一つ目に身につけさせたい態度の育成のために「継続指導6項目」を定め、二つ目に育てたい能力を「学校改善の視点」としてまとめ、三つ目に生活の基盤づくりのために「家庭・地域との連携の充実」の3点を掲げ、子どもたちの14年間を見据えた連携教育を継続、充実、発展させる中で、保護者、市民の期待に応える質の高い義務教育を推進したい。

問 教師の資質の向上をどのように確保していくのか。

教育長 初任者研修や5年経験者研修・10年経験者研修などの研修が行われている。さらなる教員の資質向上を目指して「八街市教育センター」を設置している。

八街市教育センターでは、毎年市内の小中学校2

校を研究校として、研究した内容を2年目には、市内の全小中学校に対して公開研究会という形で発表するシステムをとっており、また、研修事業にも積極的に取り組んでいく。

問 児童・生徒の学習の到達度・理解度の把握と検証はどのようにしているのか。

教育長 小学校では一つの単元ごとにテストを行い、また中学校では学期ごとの中間と期末に定期テストを実施して、到達度目標に対する絶対評価を行っている。さらに学期末には、小学校・中学校の全児童生徒を対象に、千葉県標準学力テストを実施し、その結果は八街市教育センターにおいて、各教科の到達度、理解度等を県の平均と比較しながら、分析・評価をし、次年度の学習指導の工夫・改善に役立てている。

問 児童・生徒の朝食をとる割合、家族と一緒に朝食をとる状況をどのように把握し、分析しているのか。

教育長 小・中学校においては、学校の実態に応じて、生活習慣についてのアンケート調査を行い、その結果をもとに基本的な生活習慣

の定着のための指導を行い、同時に家庭への指導・啓発活動を通してお願いしている。

個人
質問
押尾 巖

榎戸駅周辺整備

問 榎戸駅踏切の改善進捗状況並びに跨線橋計画はどうか。

市長 現在、進めている富山踏切の拡幅改良の完了後、再度JRと協議していく。榎戸駅施設の1日当たりの平均的な利用者数は、概ね5千500人であることや、朝夕における混雑が著しい

状況から、榎戸駅の利便性の向上に向けた取り組みの必要性について、十分認識しており、今後、JR千葉支社と協議を進めたい。

農業振興

問 農作物の産地化を図る新技術の導入等の支援にどのように取り組んでいくとしているのか。

市長 市ではこれまでにも、生産者及び関係機関の協力のもと、栽培技術対策として試験圃場を設置し、新たな栽培技術の調査・研究に取り組んでおり、昨年は、葉生姜の農業残留実験、



▶榎戸駅踏切

トマトの微生物資材の効果や遮光資材等による技術の検討、里芋については、新たな種里芋の本市での適応性について調査・研究をしてきた。本年度も既に入力の試験圃場で新たな土壌消毒方法の試験を実施した。今後新たな栽培技術の向上を図るため、調査・研究に取り組む、本市の農業の発展に努めていきたい。